

藤田

Lui-même
Le Ciel
L'Avant-garde
L'Est et l'Ouest
La Femme
Les Enfants
Les Anges et le Paradis

Les 7 Passions de Foujita

嗣治

7つの情熱

展覧会
藤田嗣治 ー7つの情熱 Les 7 Passions de Foujita
会期:2025年4月12日(土)ー6月22日(日)

執筆・編集:SOMPO美術館
デザイン:佐藤大介(sato design.)
発行:公益財団法人SOMPO美術財団／SOMPO美術館
発行日:2025年4月12日
©公益財団法人SOMPO美術財団／SOMPO美術館

鑑賞ガイド | 藤田嗣治 | 年譜



SOMPO美術館
Somp Museum of Art

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
<https://www.sompo-museum.org/>



SOMPO美術館
Somp Museum of Art

藤田嗣治

年譜

1886年(明治19年)		11月27日、東京府牛込区(現在の東京都新宿区)に、陸軍軍医・ つぐあきら 嗣章 と政の第四子として生まれる。姉にきくとやす、兄に嗣雄が い る。
1888年(明治21年)	2歳	父の転任に伴い、熊本県に移る。
1891年(明治24年)	5歳	8月、母・政が34歳で死去。
1898年(明治31年)	12歳	兄と共に、姉の嫁ぎ先である東京市四谷区(現在の新宿区)の芦原家に移る。
1900年(明治33年)	14歳	東京高等師範学校附属中学校に入学。この頃、絵を習う決意を父に手紙で知らせる。父の許しを得、絵の道具を購入する。
1903年(明治36年)	17歳	中学校に通いながら、暁星中学校の夜間部でフランス語を学ぶ。
1905年(明治38年)	19歳	東京美術学校(現在の東京藝術大学)西洋画科に入学。 黒田清輝、和田英作らの指導を受ける。
1910年(明治43年)	24歳	東京美術学校卒業。卒業制作の《自画像》を黒田清輝が批判する。 文展に応募するが、3度続けて落選。
1912年(明治45年・大正元年)	26歳	こい 鶴田 とみと婚約、千葉県のとみの実家で暮らす。
1913年(大正2年)	27歳	6月、3年の約束で門司港からフランスに向けて出発。 8月、パリ到着。ピカソのアトリエを訪ねる。川島理一郎と共に、レイモンド・ダンカンの古代様式によるネオ・ヘレニズムの運動に加わる。
1914年(大正3年)	28歳	キュビズム風の作品を制作する。7月、第一次世界大戦が勃発。 パリに留まり、川島と赤十字の看護員に志願する。日本からの送金が滞り困窮する。
1915年(大正4年)	29歳	パリを離れ、川島と共にドルドーニュ溪谷のマルザック城の留守番をする(川島が渡米するまで)。
1916年(大正5年)	30歳	とみと別れる。父に留学の継続を願う。
1917年(大正6年)	31歳	パリに戻りモンパルナスにアトリエを構える。フェルナンド・バレーと結婚。 シェロン画廊で初個展開催。
1918年(大正7年)	32歳	モディリアーニ、スーティンらと、南仏カーニュで過ごす。ルノワールのアトリエを訪ねる。 11月、第一次世界大戦終結。
1919年(大正8年)	33歳	サロン・ドートンヌに6作品を初出品し全点入選。 1920年に会員となり、1922年には審査員となる。 翌1920年にはサロン・デ・ザンデパンダンに出品。
1922年(大正11年)	36歳	帝展に出品、日本デビューを果たす。 渡仏した板東敏雄の面倒を見、同じアトリエで制作する。
1923年(大正12年)	37歳	この頃、女性像についてパリの批評家が「乳白色の肌」と絶賛する。 海老原喜之助が渡仏し、藤田に師事。1921年に渡仏していた東郷青児と交流。
1924年(大正13年)	38歳	フェルナンド・バレーと別れ(フェルナンドは小柳正と暮らし始める)、リュシー・バドゥ(通称ユキ)と暮らし始める。 板東敏雄にシェロン画廊を紹介する。
1925年(大正14年)	39歳	レジオン・ドヌール勲章受章。翌1926年にはフランス政府が《友情》を買い上げる。 この頃、岡鹿之助、たけの 三三男、高崎剛らと交流。 岡は藤田が使っていたドランプル通りの部屋に住まう。
1929年(昭和4年)	43歳	ユキと正式に結婚。8月、ユキと共に帰国。翌1930年、アメリカ経由でパリに戻る。
1931年(昭和6年)	45歳	ユキと別れる。10月、マドレーヌルクーとブラジルに向かう。

1932年(昭和7年)	46歳	アルゼンチン、ボリビア、ペルー、キューバ、メキシコを旅行。 翌1933年、マドレーヌと共にアメリカ経由で日本に帰国。
1934年(昭和9年)	48歳	次姉の嫁ぎ先である東京市淀橋区(現在の新宿区)の中村家に寄寓し、庭にメキシコ風のアトリエを建てる。二科会会員となる。
1936年(昭和11年)	50歳	東郷青児と京都丸物百貨店のための壁画を競作。 藤田は《野遊び》を、東郷は《朝》を制作。 6月、マドレーヌが急死する。 12月、堀内君代と暮らし始める。
1938年(昭和13年)	52歳	海軍省嘱託画家として、中国に派遣される。 二科会に前衛的絵画の研究を目的とする九室会が結成され、東郷青児と共に顧問に就任する。
1939年(昭和14年)	53歳	4月、アメリカ経由で君代と共に渡仏。モンマルトルに住む。 9月、ドイツ軍がポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が勃発する。
1940年(昭和15年)	54歳	5月、君代と共にパリを脱出し帰国する(高野三三男夫妻も共に帰国)。 陸軍省嘱託として満州に行く。
1941年(昭和16年)	55歳	帝国芸術院会員となり、帝国芸術院、国際文化振興会からフランス領インドシナに派遣される。 12月、真珠湾攻撃、太平洋戦争勃発。
1943年(昭和18年)	57歳	国民総力決戦美術展に《アッツ島玉砕》を出品。
1944年(昭和19年)	58歳	神奈川県津久井郡小淵村(現在の神奈川県相模原市)に疎開。
1945年(昭和20年)	59歳	《サイパン島同胞臣節を全うす》を描く。小淵村で終戦を迎える。 戦争画の説明のためGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の嘱託となる。
1946年(昭和21年)	60歳	GHQが軍国主義者の公職追放を指令。 4月、日本美術会が結成、美術界の戦争責任が議論され、藤田を筆頭とした画家の戦争犯罪者リストが作成される。 翌1947年、GHQが戦争犯罪者リストを公表し、藤田の戦犯の疑いが晴れる。
1948年(昭和23年)	62歳	岡鹿之助らとの対談をまとめた『巴里の昼と夜』出版。
1949年(昭和24年)	63歳	3月、単身アメリカに発つ。ニューヨークに滞在。2か月後に君代が合流する。 翌1950年2月、パリに到着、モンパルナスに住む。
1953年(昭和28年)	67歳	この頃、子どもの姿を多く描く。 この頃、1951年に渡仏した田淵安一と交流。
1955年(昭和30年)	69歳	2月、フランス国籍を取得、日本国籍を抹消する。
1959年(昭和34年)	73歳	10月、ランス大聖堂でカトリックの洗礼を受ける。レオナル・フジタに改名。
1961年(昭和36年)	75歳	パリ郊外エソンヌのヴィリエル＝バクルの家(現在のメゾン・アトリエ・フジタ)に転居。
1965年(昭和40年)	79歳	ランスにノートル＝ダム・ド・ラ・ペ(平和の聖母礼拝堂)を建設する計画に着手(レオナルの名付け親で、シャンパーニュ製造会社マムのルネ・ラルーの協力による)。
1966年(昭和41年)	80歳	8月、礼拝堂が完成する。10月に除幕式。 12月、パリの病院に癌で入院、以降、病院を転々とし、入退院を繰り返す。 1967年には渡欧中の海老原喜之助が見舞う。
1968年(昭和43年)		1月29日、スイスのチューリッヒ州立病院で死去。 享年81。海老原喜之助、田淵安一らが最期を看取る。ランス大聖堂で葬儀。